

## II-2 | 将来都市構造

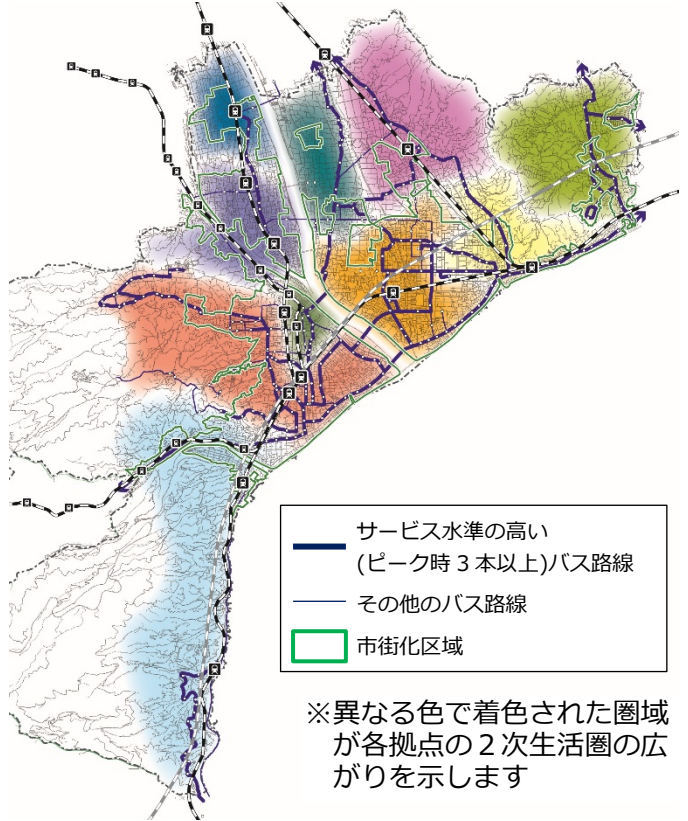
### 1. 拠点設定と都市機能誘導の方向性

#### ①段階的な生活圏域の形成に向けた拠点配置の考え方

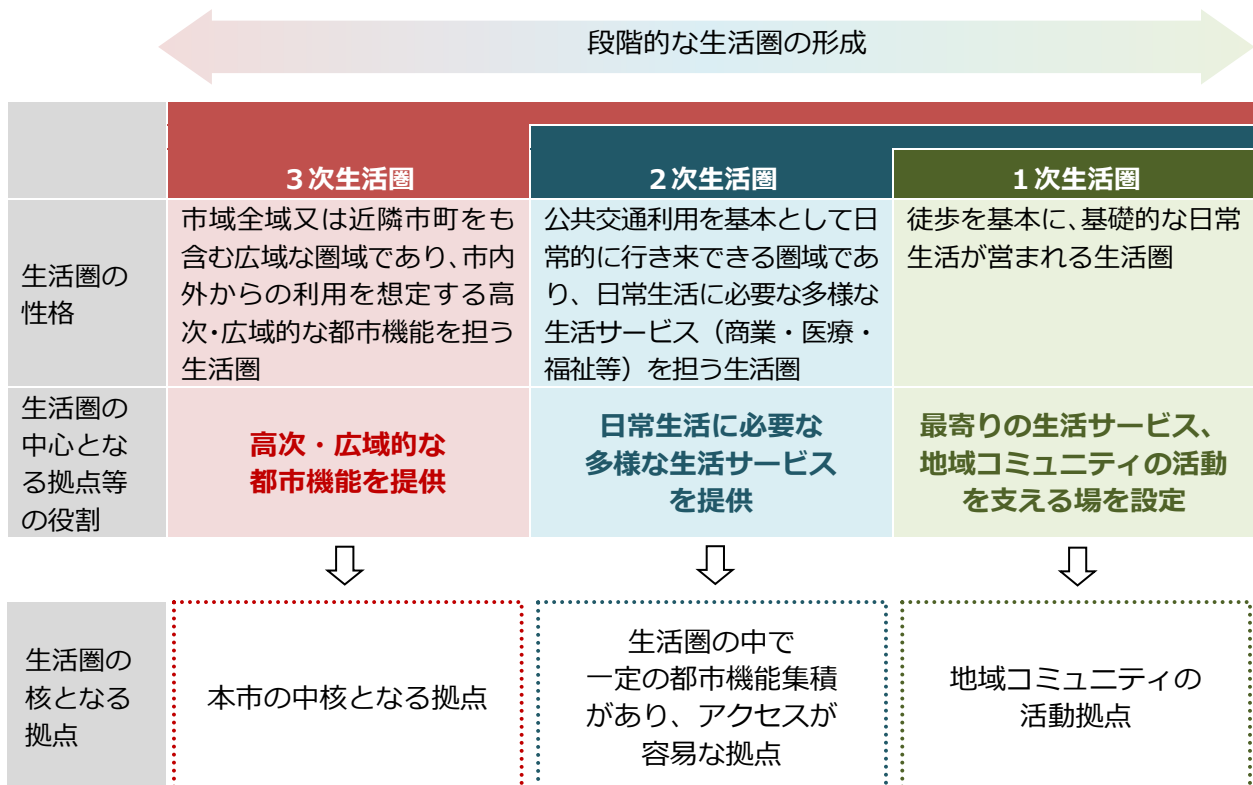
「公共交通の利便性を生かした“歩いて暮らせる”生活圏の構築」の実現に向けて、下図に示すような段階的な生活圏の形成を目指します。

拠点を配置する生活圏は、“2次生活圏”として捉え、徒歩及び公共交通の利用を前提に、市街地の広がり、公共交通網の形成状況と利用状況、今後の超高齢社会を支える地域包括ケアシステムを展開する日常生活圏域等を鑑み、右図のとおり、生活圏を設定します。

#### ■拠点を配置する生活圏（2次生活圏）の設定



#### ■生活圏の段階構成と拠点の役割・配置の考え方



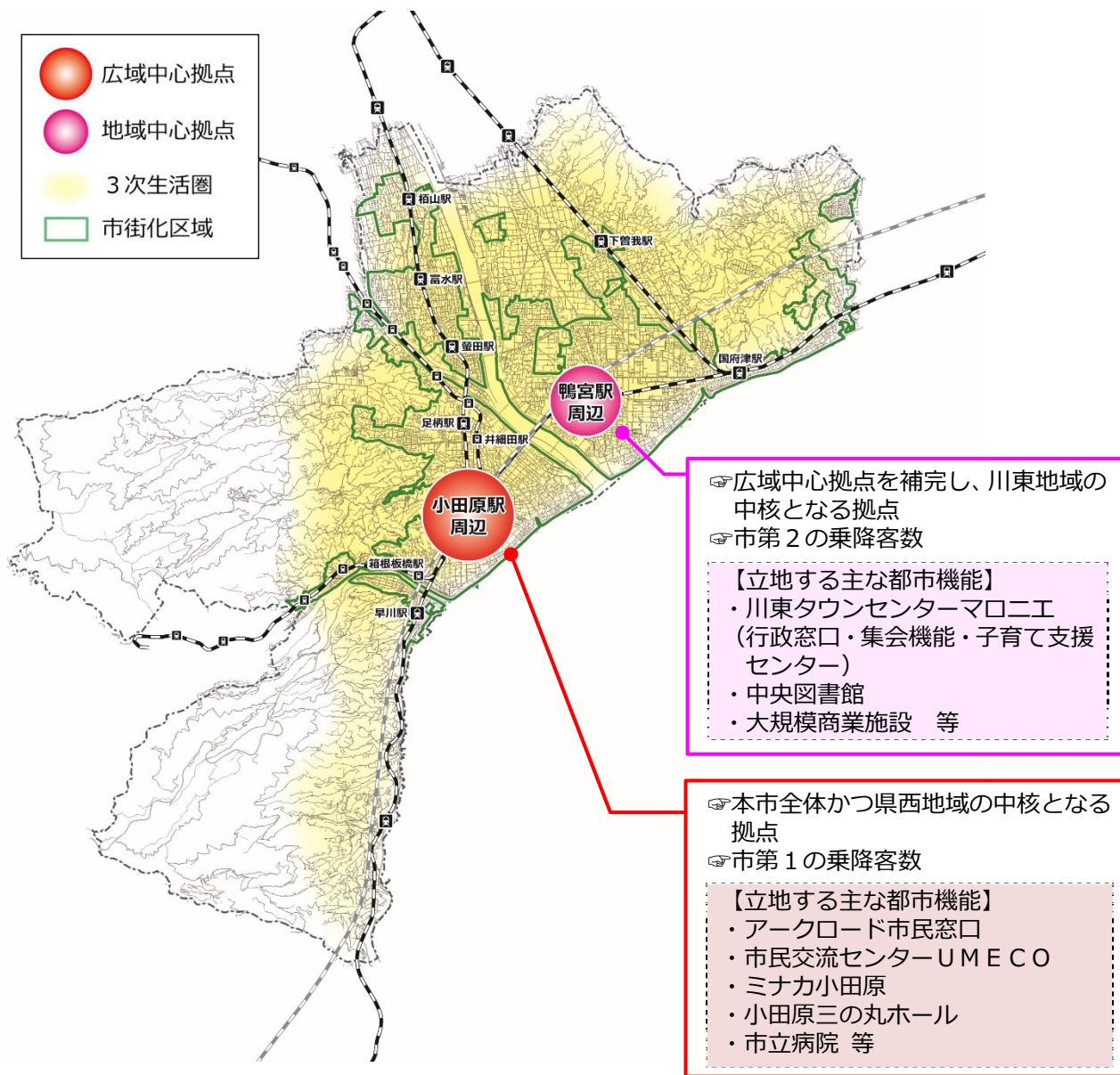
## ②本市の中核となる拠点の設定

**都市づくりの方向性「既存ストックを生かした魅力的な都市の拠点づくり」を踏まえ、本市の中核となる『広域中心拠点』『地域中心拠点』を設定します。**

本市全体かつ県西地域の中核となり、3次生活圏に必要な市内外からの利用を想定する高次・広域的な都市機能を担う拠点として、広域的な公共交通の結節点を有し、高次で多様な都市機能を備える小田原駅周辺を『広域中心拠点』として設定します。

また、市街地が広く分布する川東地域の中核となる拠点として、公共公益機能や広域的な都市機能が集積する鴨宮駅周辺を『地域中心拠点』とし、広域中心拠点の機能・役割を補完するとともに、公共交通ネットワークにより連携を図るものとします。

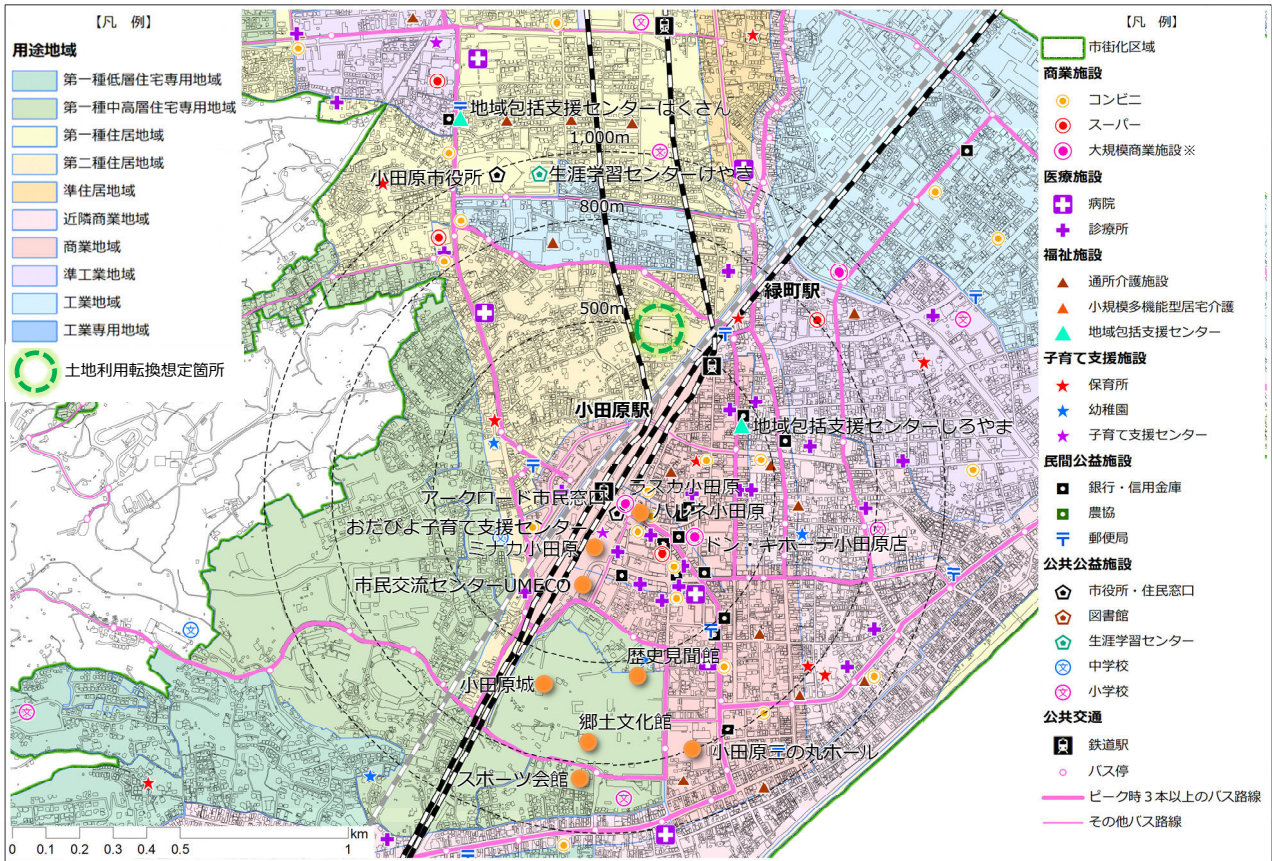
そして、拠点内における歩行空間や自転車利用環境の整備を推進するとともに、回遊性の向上を図ります。



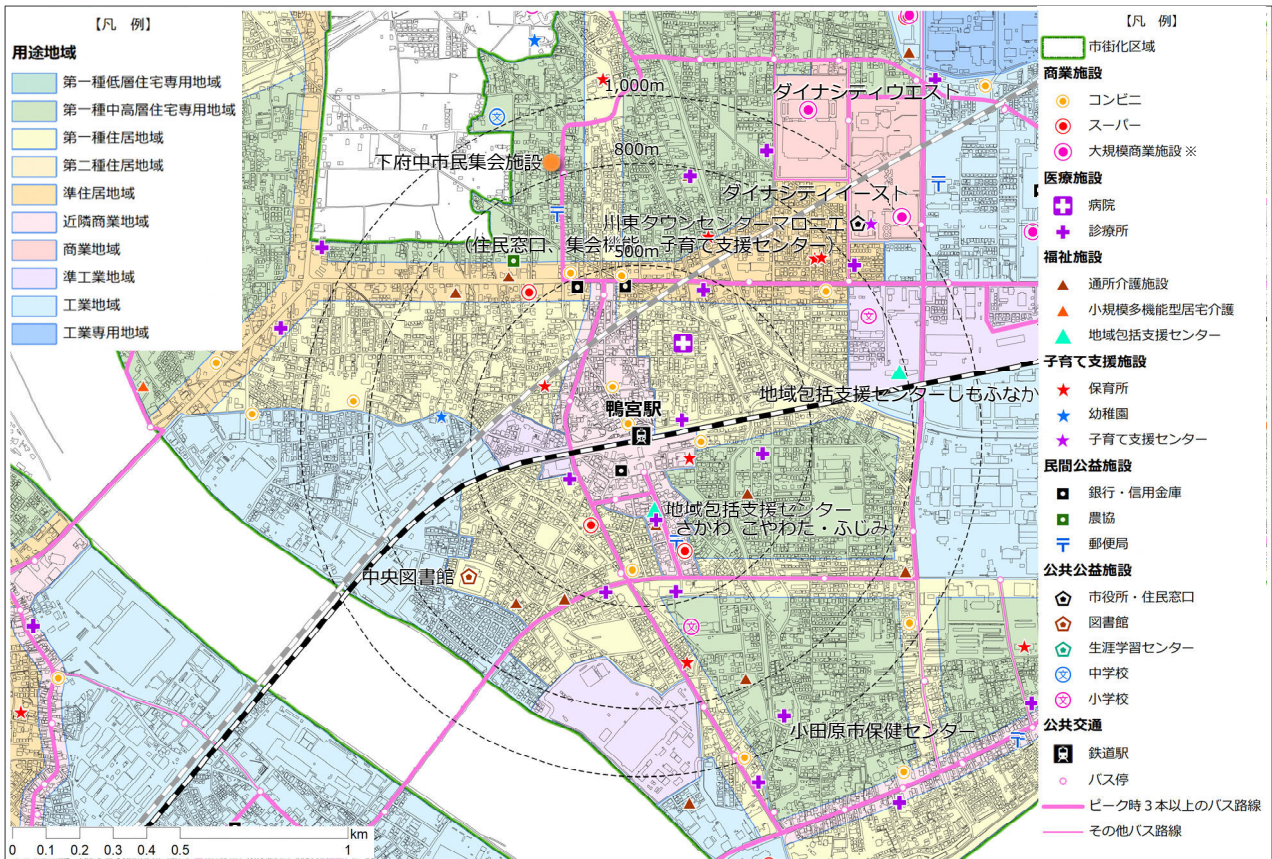


(参考) 広域中心拠点、地域中心拠点における都市機能及び公共交通の状況

【小田原駅周辺】



【鴨宮駅周辺】





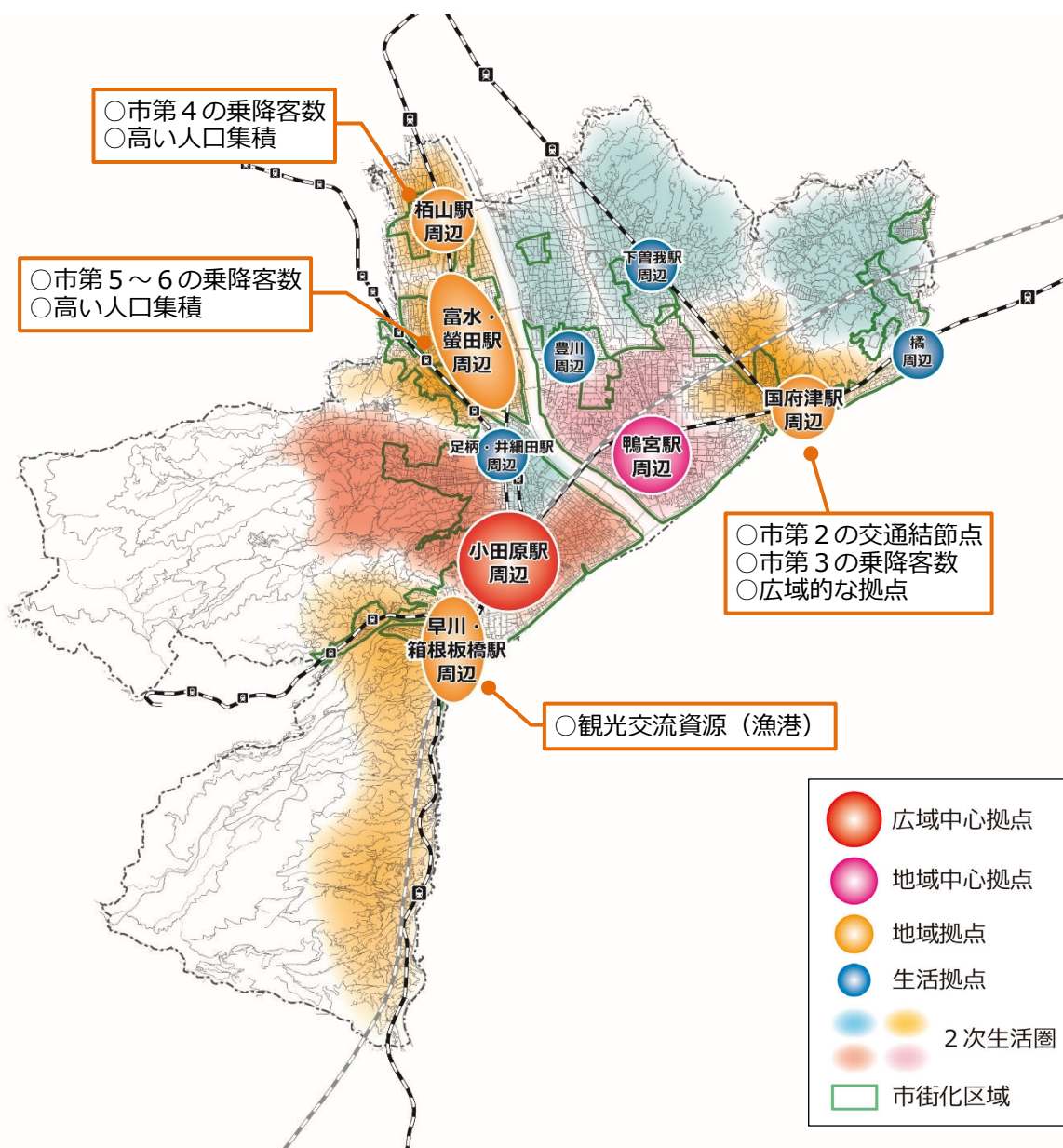
### ③生活圏の中心となる拠点の設定

都市づくりの方向性「公共交通の利便性を生かした“歩いて暮らせる”生活圏の構築」を踏まえ、生活圏の中心となる『地域拠点』『生活拠点』を設定します。

今後の人口減少、高齢化の進行に備え、本市の特徴である公共交通の利便性を生かし、過度に自動車に依存することなく“歩いて暮らせる”生活圏を構築する必要があります。

「生活圏」は、段階的な生活圏の中の“2次生活圏”に該当するものであり、バスによる移動も含め一定の広がりを持つ日常生活の行動圏として捉えます。「生活圏」において、駅やバス停周辺など公共交通によるアクセスが容易であり、生活サービス施設が既に一定程度集積し、日常的なサービスを効率的に提供できるエリアを、生活圏の中心となる「生活拠点」として設定します。

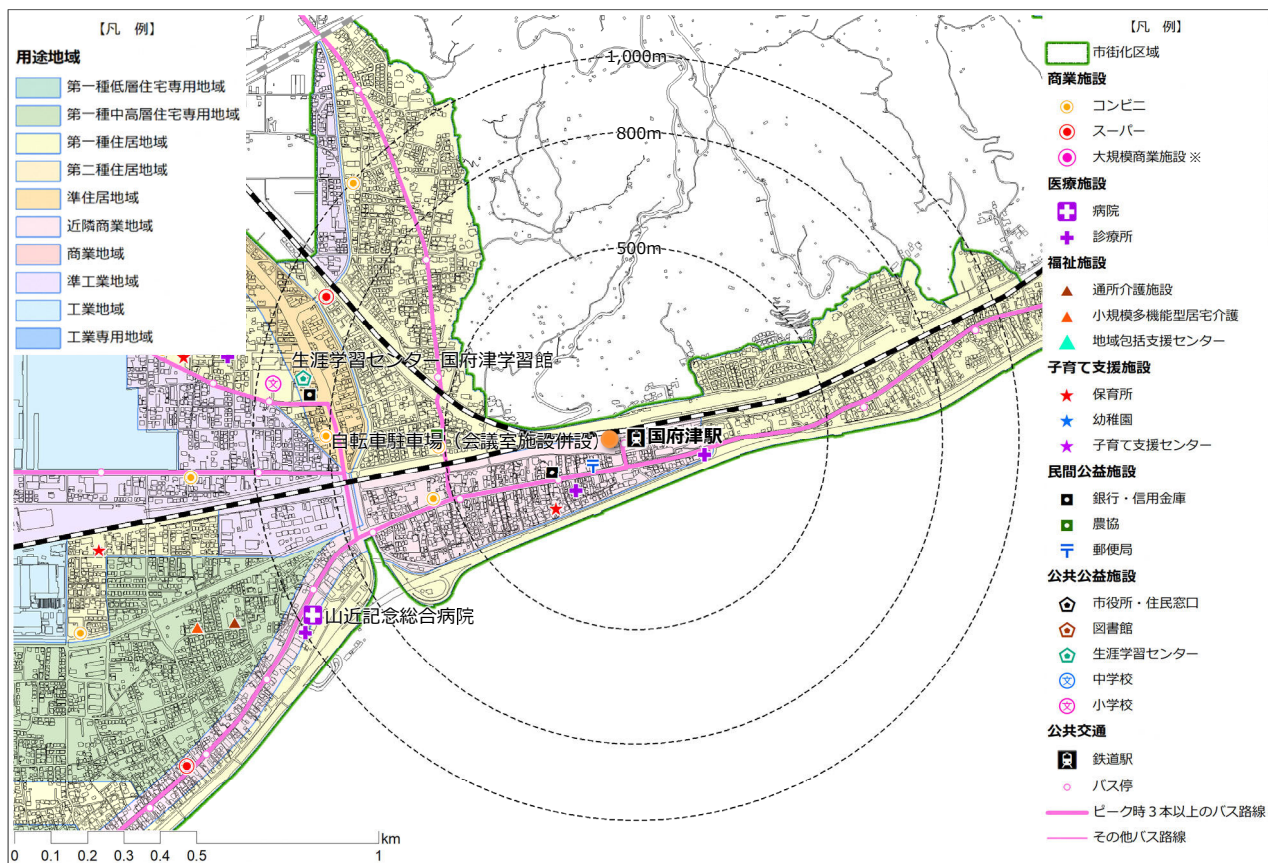
「生活拠点」の中でも、特に都市機能集積の高い拠点、都市機能の立地ポテンシャルが高い人口や利用者の多い拠点や、主要な観光交流施設を有する拠点は、その既存ストックやポテンシャルを最大限生かし、都市機能の強化・誘導を図る「地域拠点」として設定します。



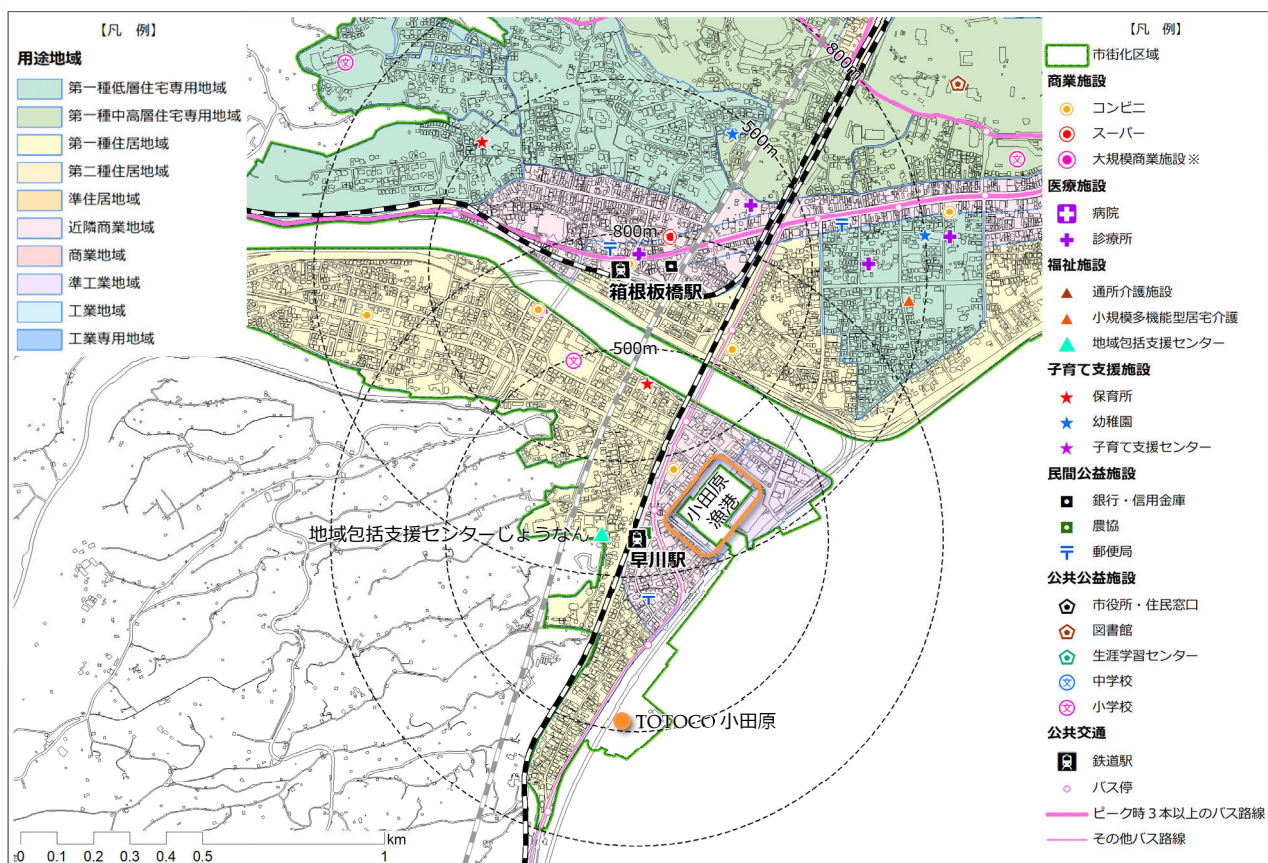


■（参考）地域拠点における都市機能及び公共交通の状況

【国府津駅周辺】

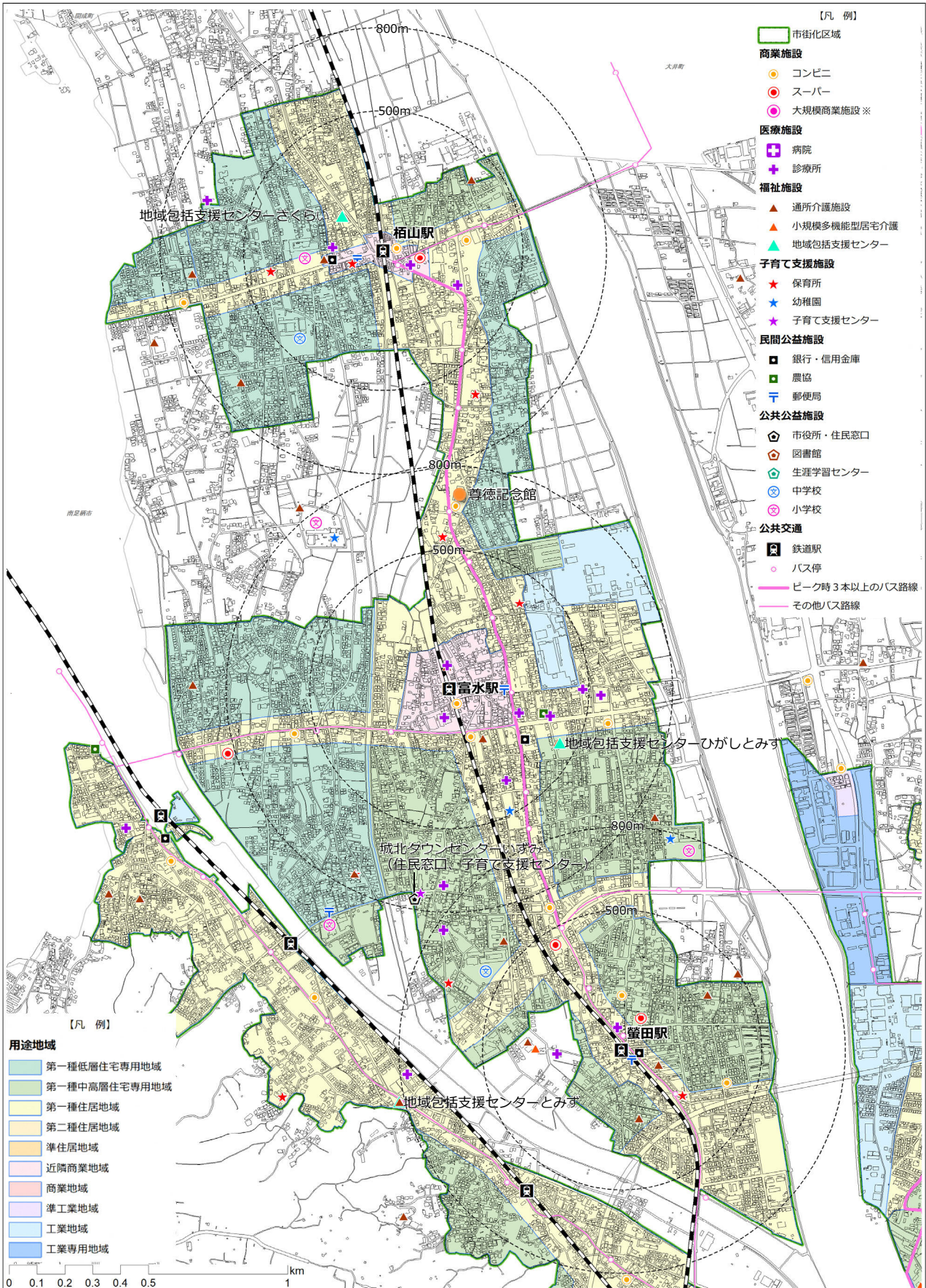


【早川・箱根板橋駅周辺】





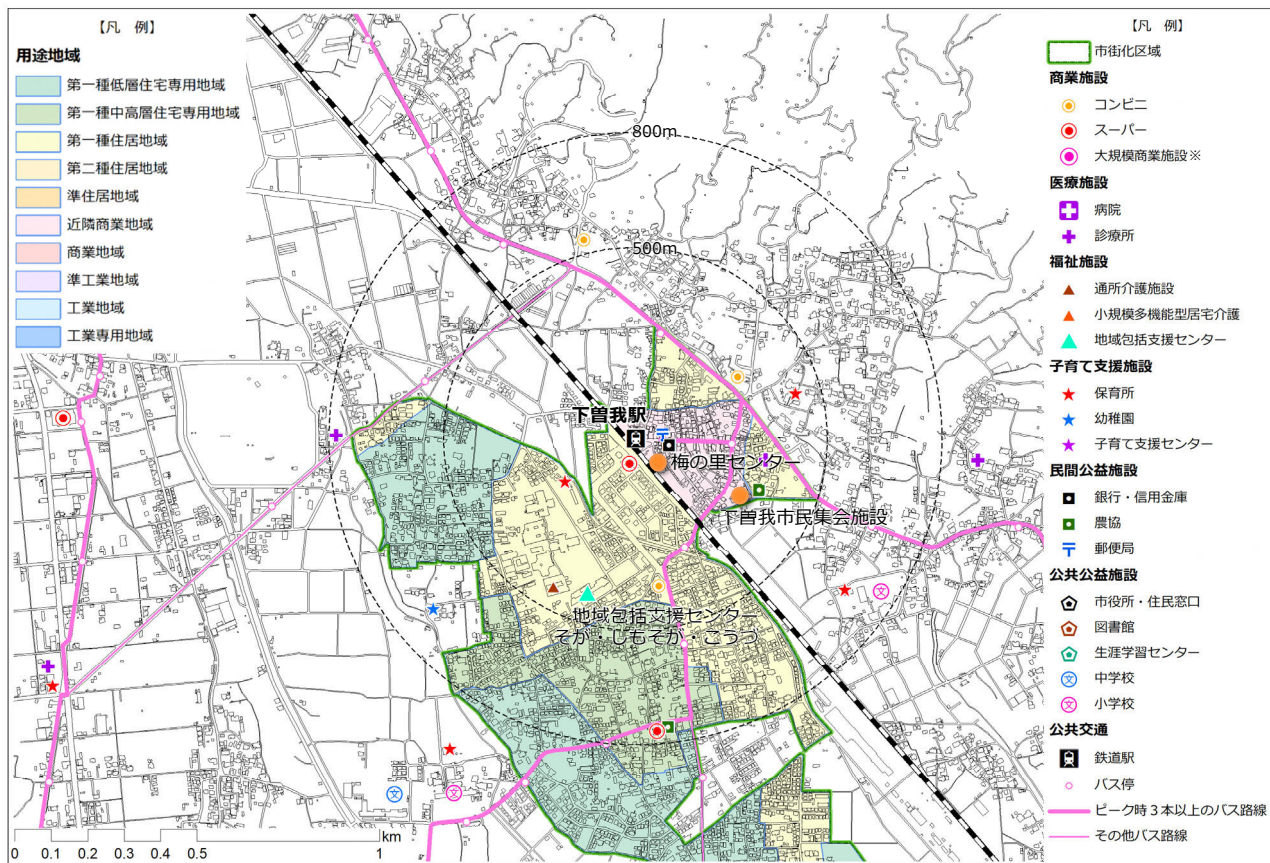
【栢山駅周辺及び富水・螢田駅周辺】



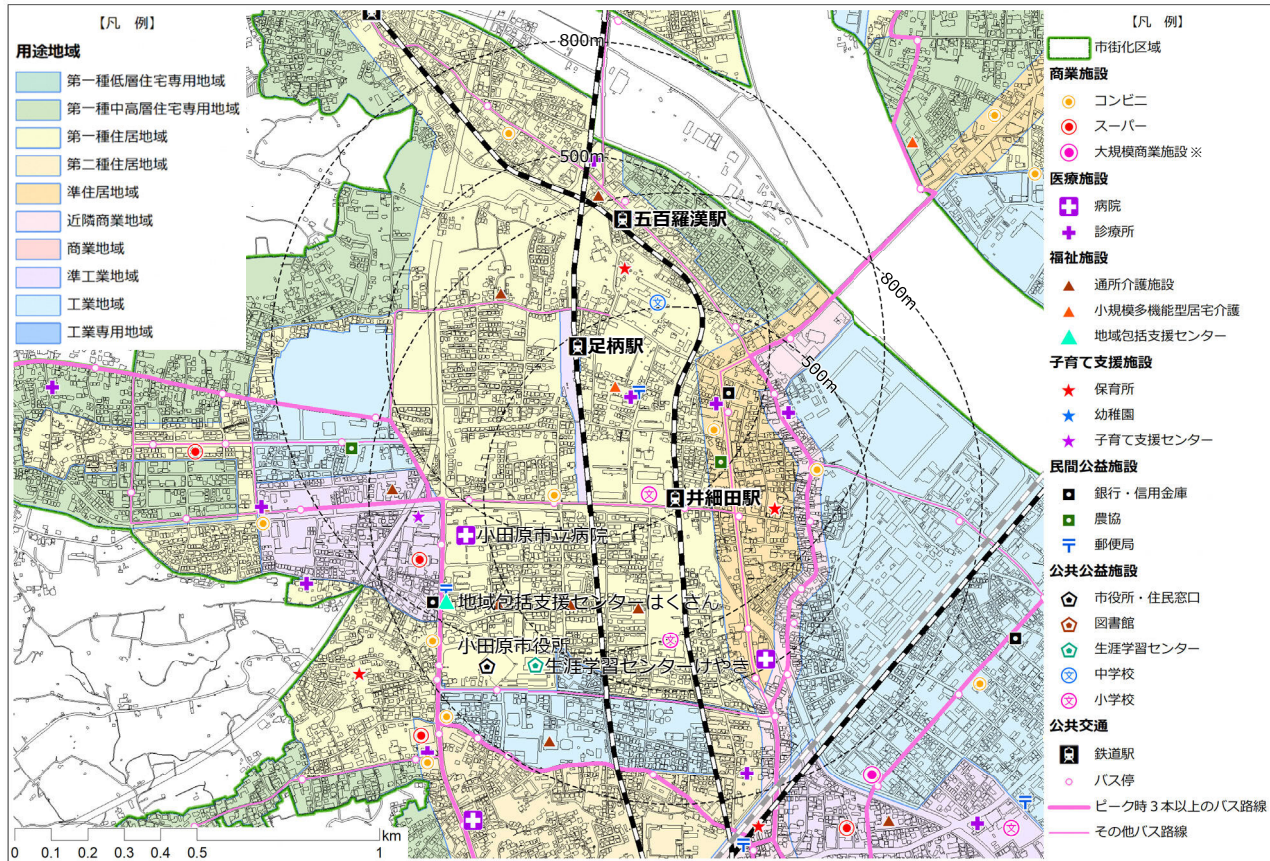


■ (参考) 生活拠点における都市機能及び公共交通の状況

【下曽我駅周辺】

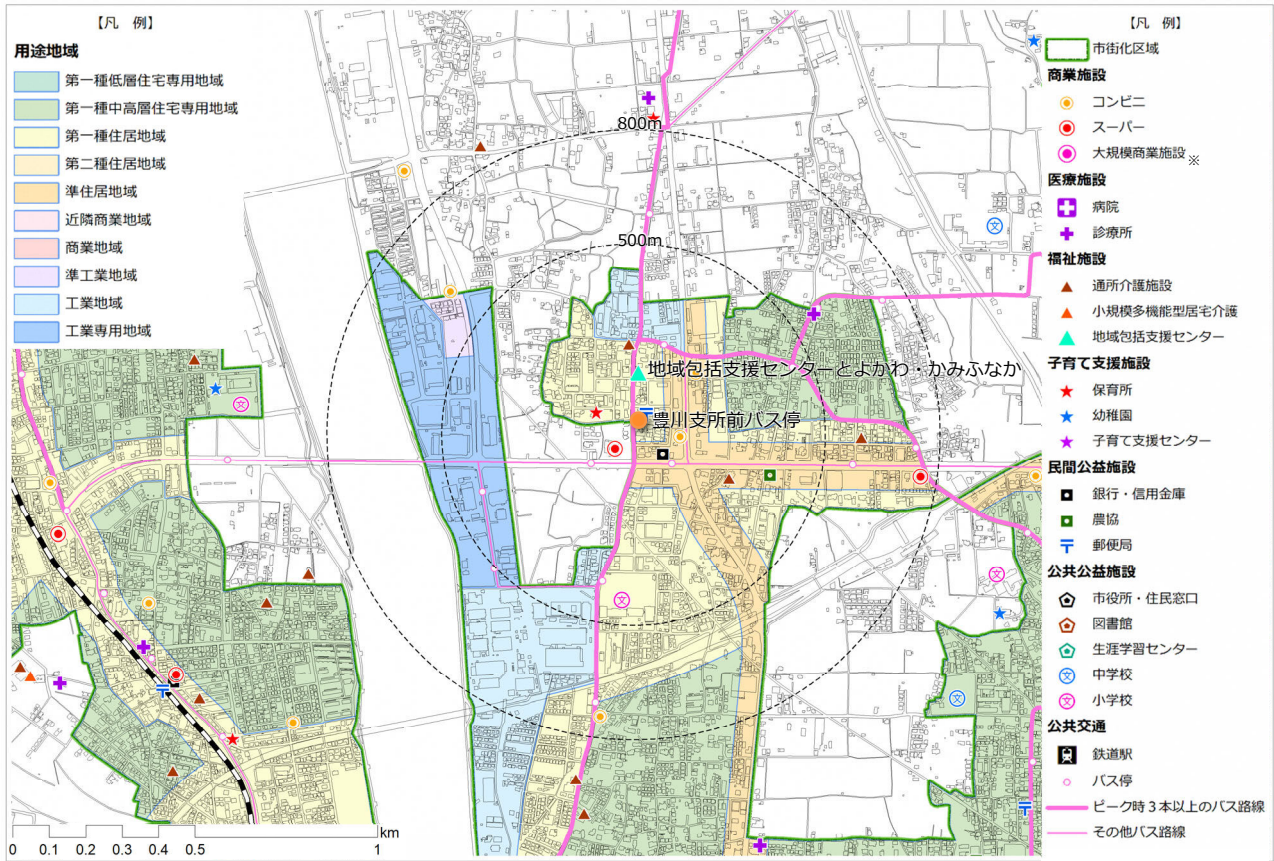


【足柄・井細田駅周辺】





## 【豊川周辺】



## 【橋周辺】

